令和５年度第２回広島市社会教育委員会議　会議要旨

日　時：令和６年２月８日（木）１０：００～１１：１０
場　所：市役所本庁舎１４階　第７会議室
議　題（公開・非公開の別）：
⑴　浅野文庫等施設（仮称）整備基本計画（案）について（公開）

傍聴人：３名
出席者：⑴　委員　　９名
砂橋委員、岩元委員、松本委員、湯浅委員、住田委員、板倉委員、鈴木委員、竹澤委員、松田委員
⑵　事務局　８名
市民局次長、生涯学習課長ほか

【議事（会議要旨）】
⑴　浅野文庫等施設（仮称）整備基本計画（案）について
生涯学習課長が、資料に基づき、浅野文庫等施設（仮称）整備基本計画（案）について、内容を説明した。
＜意見、質疑等＞
（松田委員）
研究の観点から他県から来る研究者にとってすごく利用しやすいに施設になるのではないかと思う。新施設の位置付けとして、文書を保管する資料館なのか、展示や学芸員を配置するということで博物館としての位置付けなのか。

（生涯学習課長）
資料１３ページの記載のとおり、専門図書館として整備することを考えている。同ページ下のネットワーク図にあるように、一般的な資料を収集・提供するエールエールＡ館に移転する新図書館、主に児童書などの子供の図書を扱うこども図書館、新施設は歴史資料や郷土資料の専門館という形の図書館として扱うことにしている。この図書館自体がもともと浅野家から教育文化を高める図書館として寄贈されたことを起源としていること、また、これらの資料は、浅野文庫にしろ、文学資料にしろ、図書館の資料としてこれまで閲覧されてきたことも踏まえ、図書館ネットワークの中で専門図書館として位置付けていくよう考えている。

（松田委員）
専門図書館ということであれば、市民に広く広げようとするコンセプトからずれてしまう可能性はないか。専門図書館は、歴史を調べたりするなど、そこに関心のある人達が行くイメージしか思いつかないがどうか。

（生涯学習課長）
今回のような専門図書館は広島には無かったもので、浅野文庫やその他の貴重資料がありながら、

今まで十分に活用できていなかった。また、研究もしっかりできていなかったというところもあったことから、今回、そういったことに特化した専門図書館として整備したい。エールエールA館に移転する中央図書館とも連携しながら、エールエールA館に移転する中央図書館は一般的なところを学んでいく場所、新施設はより学びを深める、より研究を深めるといった今まで足りていなかった機能を補い、新たに整備することで資料をしっかりと学んでいただける施設にしたいと思っている。

（松田委員）
広く市民に開くというよりかは専門性のある市民、あるいは子供達の学びの場として活用してもらうという方針になっていくのか。

（生涯学習課長）
専門性のある市民や子供達の学びの場として活用してもらうことに加えて、子供達に郷土の歴史や文化に興味を持ってもらえるような施設としたい。広島市民の中で「浅野」が知られていないというのが現状なので、学校とも連携しながら、新施設を作るという中で、被爆以降の歴史だけではなく、被爆以前の歴史もしっかりと学んでもらいながら、郷土愛を育んでいただける図書館にしたいと思っている。

（松田委員）
せっかくなので、例えば観光客を含め、広島の歴史をもっとより多くに人に知ってもらうような施設になるとよいと思う。

（砂橋委員）
新施設の図書館をどのように活用するかはこれから練られていくのだと思う。メニューとしてどんなものがあるのか、どうような層に使ってもらいたいのか、研究者にどのようなことが提供できるのか、市民が使う際にはどのようなことができるのかなどは、まだイメージがわかないのが実態だと思う。現時点ではどのように使っていくというものが見えてこないかもしれないが、この場で意見を出すことで、これからの計画の中に反映されるということでよいか。

（生涯学習課長）
今回は基本計画なので基本的なところを示している。今後、新施設の中身を検討していく過程で、展示の内容等のメニューの検討をしっかり深めていき、今の中央図書館との役割分担もしっかり整理し、専門家だけではなく、一般の方々が使ってもらえるような施設にしていきたいと思っている。

（住田委員）
説明を聞く限り博物館的な要素が強いと感じた。国立博物館でも研究者だけではなく、一般の方がたくさん来館し、広く一般の方々が来てもらえるような展示や体験ができるなどの工夫が行われている。どちらかというと、この新施設はそういった博物館的なものの方が、どういう施設かと聞かれた時の中央図書館や各区図書館等との差別化が図られ、わかりやすいと考えるが、そのあたりをはっきりすることはできないか。

（生涯学習課長）

浅野文庫の資料等は、もともと浅野家から教育文化を高める図書館として寄贈されたところからスタートしており、これらを市民の教養を高めるための図書資料として使ってもらいたいという思いも汲み取りながら検討・整理した結果、今回の新施設は専門図書館という形にして、博物館的なものだけではなくて、一般図書も閲覧できつつ、必要な資料も閲覧してもらえる図書館として整理している。

（板倉委員）

浅野文庫等の資料が傷まないように残していかなければいけない大事なものであることがよくわかった。保存しておくだけではもったいないので、この資料を市民がどうやって活かしていくのかを、みんなに周知して、研究者だけではなく一般の方々にも使ってもらうという視点で、一般の方々が入りやすく見やすいような施設として活用できるように検討していただきたい。

（生涯学習課長）

資料が知られていないのが課題であると認識しているので、こういった資料があるということをみなさんに知っていただく、また関心を持っていただく、それに伴い郷土愛を育んでいただくような施設にしたいと思っている。この計画ができたから終わりではなく、施設ができるまで、できた後も資料の活用を図るための取組を行っていきたいと考えている。

（市民局次長）

当該計画案は、骨格部分しか記載されておらず、また、時間の関係で説明を省略している部分もあるためイメージが付きづらい部分があるかと思う。例えば、１２ページに「郷土の歴史・文化に関する学習、調査・研究を支援する」と記載しているが、いわゆる専門家をターゲットにしている。そういった専門家の方々の研究支援だけではなく、小・中学生を中心とした子供達に、広島の被爆以前の歴史、成り立ちや流れを知ってもらうための調べ学習の支援や学習機会の提供を行っていきたいと考えている。さらに、西国街道を歩きながら広島の歴史に思いをはせる活動などの歴史に関する活動を行っている団体等の支援であるとか、市民が興味を持つきっかけとなるような講座や講演もしっかりとやっていきたいと考えている。

当然、広島に来ていただいた方にも、貴重な資料があることや被爆以前の歴史があることも知っていただきたいと思っている。今回、展示にも力を入れていこうと考えており、今まで施設環境の関係で展示できなかった資料もあるので、そういった資料も見てもらいながら、しっかりストーリーを作って、広島の成り立ちから現代までをデジタルや実物を織り交ぜながら見ていただき、観光客をターゲットにするだけではなく、広島市民が歴史を知るきっかけとして学んでいただける施設を考えている。

図書館と博物館のいいとこ取りというか、ハイブリット的な施設を考えており、新施設の職員も学芸員と司書を半数ずつ配置して、学芸員には資料の保存や研究をしてもらい、司書には学びを支援するための図書の収集や調べ学習の支援等を企画してもらうようなイメージを持ちながら、新施設を作っていきたいと考えている。まだ計画を作ったばかりであるため、この会議の場やパブリックコメントなどで市民のみなさんの意見をお聞きしながら、どういった施設を作り上げていくかをしっかりと考えていきたい。

（湯浅委員）

広島が生んだ文学者が多くいるため、以前から福山市に負けないような文学館を作ってほしいと意見しており、今回の施設が文学館的な役割を果たすということで喜んでいる。

一般図書と専門図書をはっきりと差別化や棲み分けをするのではなくて、中央図書館に行って興味・関心を持ってもらい、そして新施設に行って深く学び、いやもう少し広く学びたいということであれば中央図書館に再度行ってみるといった往復ができるような施設になればいいと思っている。

そうなるためには、観光客やＪＲ利用者が行き交う広島駅の２階辺りに、中央図書館があるエールエールＡ館の各階にそれぞれどのような施設があって、どのような展示をしているのか、さらに、中央館がどういった役割を担っているのか、広島駅の電子掲示板を見れば一目でわかり、また、エールエールＡ館の図書館に行けば各フロアの詳しい説明や分館がどういった特色があり、どういった展示を行っているのかが分かるような電子掲示版を、広島駅とエールエールＡ館の中央図書館に１個ずつ、可能であれば、こども図書館や新施設にも設置することでネットワークの充実が図られ、中央館としての機能も果たすのではないかと思う。

（生涯学習課長）

それぞれの施設にどのようなものを置くのかといったことは今後検討していきたい。

（竹澤委員）

１７ページの記載では、「ひろしま都市活性化プラン」における「歴史・文化・スポーツ交流ゾーン」にあるとともに、「平和の都心回廊」づくりにおいて「文化の道」として位置付けられていて、さらに、広島市に文学館が設置されるという１２日付けの新聞記事で大変期待しているといった一般の方の新聞の投稿があり、すごく注目もされている。県外には、歴史・文学資料館があると思うが、それが広島市にはないことが印象としてある。図書のみならず、歴史や広島市の方々がどのような生活をされていたのかということが一体的に分かるような資料を展示する施設になるのであれば、名称も大変重要な部分であると思う。「浅野文庫」という名称であれば、図書だけに特化した施設で図書しか置いていないのかなという印象を抱いてしまうのではないか。

また、一般図書を所蔵している場所と浅野文庫で一般図書を置くというところが、どのような棲み分けになっているのかが気になる。

さらに、「文化の道」、「平和の都心回廊」ということで、広島駅から県立美術館、広島城などを経て平和記念公園に至る道として、観光客や一般の方の導線をどのように考えていて、新施設に足を運んでもらうのかも重要な課題になると思う。

（生涯学習課長）

広島の資料館としては、郷土資料館や広島城の中の展示、さらに、三の丸歴史館もできる予定であり、原爆資料館等も含めて、そういった施設としっかり連携し、棲み分けをしながら全体を回っていただけるような形にしたい。

名称については、「仮称」としているので、新施設がどういった施設なのかが分かるような名称になるように今後検討していきたい。

エールエールＡ館の一般図書との棲み分けは、新施設には、貴重資料だけではなく、貴重資料を使って調査・研究を行うための歴史に関する一般書や郷土資料を置くようにしている。ただし、エールエー

ルＡ館においても９階に「広島を知るエリア」を作る予定であり、重複する部分もあるかもしれないが歴史以外にも広く広島を知っていただくものについてはエールエールＡ館に置くことで棲み分けをしていきたいと考えている。

県立美術館等との連携や集客については、県立美術館はもともと浅野家が所有していた博物館が起源になったということや隣にある縮景園についても浅野家の庭園として整備されたものであるため、ゆかりのある場所を巡る一体的な取組ができないかそれぞれの部署と検討していきたいと思っている。

（松本委員）

浅野家の寄贈されたものを柱として大事にしていきたいというのがあると思う。なおかつ、広く一般の市民にもまずは知っていただこうという思いがあるのだと現時点では感じている。その中でどうやって肉付けをしていくか、広島らしさを出していくのかというところだと思う。

専門性のある学芸員が少なくなってきているので、専門性のある学芸員をどう人材育成していくのか、あるいはＯＢなどを職員として配置していくことが可能であるかなど、せっかく作る貴重なハコモノなのだから、ソフト面も非常に大事になってくると思う。今後の検討になってくるのだと思うがそういったソフト面の対応もお願いしたい。

また、浸水や災害のリスクにおいて、想定外の災害や何が起こるかわからない曖昧で不確実な時代でもあるが、貴重資料等は２階に設置することで決まっているのか。

（生涯学習課長）

２階を保管場所に設定しているのは中間階であること。新施設は３階建ての建物であるが、１階での浸水、今後老朽化していく中での３階での雨漏り等のリスクを考慮すると、中間階である２階であれば、そういったリスクを防げる適した場所ということで今回は２階に保管場所を設けることとしている。資料を３階に持っていくよりも２階にある方が資料をしっかり守るという面で適しているということで２階にしている。

専門性を持った学芸員の育成については、今後、どの段階で、どのように増やしていくのかなどについては、施設ができる前の段階からしっかりと学芸員が勉強する期間も確保しながら、人材を採用していくなどといったことも考えていきたい。

（岩元委員）

すごく価値のある大切な事業だと思う。アカデミックな部分と、一般の方達にも知ってもらうような部分の両面で考えられており、知るためのきっかけづくりが、今後の重要なテーマになってくると思う。また、家族で訪れてわかりやすい展示があればよいと思う。

（鈴木委員）

今まで市民の目に触れることがなかった浅野文庫が、誰でもいつでも目に触れることができる、学習することができるということがよいと思う。

中央図書館の移転に伴って、今までの大事な資料が入りきれないとか、災害などの心配があったということであったが、別途、図書館を設けてそこに保存するということなので安心している。

また、資料等の修復も大事になってくると思う。修復のための部屋が見当たらないので、そういった部屋もきちんと整備していくことや、セミナー室で修復方法や図書の保存方法などの学習会の開催を

検討していただくとともに、その環境としてＷｉ－Ｆｉやプロジェクターなどの設備も整えていただきたい。

司書による学校との連携も非常に大事だと思う。今、学校司書の数が少なくなっており、学校図書もどんどん劣化が進んでいる。子供達に本を紹介してあげる人がいない状況になってきているので、学校としっかり連携し、子供達や学生が足しげく通えるような図書館にしていってほしい。西国街道のボランティアについては、高齢化で案内をされる方の引き受け手がいないと聞いているのでボランティアの育成にも力を入れていっていただきたい。

新施設は、図書館という位置付けなので入場料は取らないということでよいか。また、新施設では予約の図書は受け取れると記載されているが、貸出しは行わないということでよいか。

（生涯学習課長）

入場料は取らない。

一般図書は資料を研究、閲覧するための資料になるので、今のところ貸出しは行わず、他の図書館にある予約本を受け取れるようにすることを考えている。

（松田委員）

図書館という位置付けであれば、図書館法に基づくことになり学芸員の配置の義務がなくなるので、今後、学芸員がいなくならないような対策等を検討してもらえたらありがたい。

また、子供達を中心に学習の場として開いていくといった話ではあるが、広島における若者の県外移住が進んでおり、広島の子供や若者が、広島の歴史を知り、郷土愛を育むといったことが非常に重要であると考えており、重点的にやっていく必要があると思うが、そういったときに、教育計画との兼ね合いを意識していく必要や新施設を利用していく可能性を模索していくようなことを意識していく必要があると考えている。

図書館と博物館のハイブリットというのがコンセプトとしてとても良いと思った。その際に、例えば、司書と学芸員を置くのであれば、そこに社会教育士が社会教育の専門家として、いろいろなイベントを企画したり、学校との連携であったり、館内のいろいろな連携を行う社会教育士の新たな職場として、この新施設を位置付けていく可能性はあるのか。今後の社会教育士の活用という意味でもご検討いただきたい。

（生涯学習課長）

現在、中央図書館には学芸員を１名置いているが、資料を十分に活用等ができる体制にはなっていない。新施設において資料を活用していこうとすると学芸員はどうしても必要になってくるので、将来的に学芸員が減ることはなく、施設が充実されていけば増やすことを検討していく施設であると思っている。司書と学芸員がしっかりと連携しながら、それぞれの役割を果たしていけるように取り組んでいきたいと思っている。

教育計画の中での位置付けについては、教育委員会との検討を行っていないが、学校との連携の中で、計画の中に位置付ける、位置付けないにかかわらず、しっかりと子供達に資料等を見てもらうにはどうしたらよいかを教育委員会とも機会を捉えて話していきたいと思っている。

社会教育士については、現時点では活用について検討していないことから、今後の検討の中で考えていきたい。

（砂橋委員）

我々が関わっていけるのは社会教育と学校教育をどう繋げていくのかというところだと思う。放課後児童クラブの活動を通して、図書館やＮＨＫなどに視察に連れていく取組を行っているが、子ども会等の団体が施設を視察できるプランを立てることなどが我々にできることなのかなと思う。

また、図書館を利用する上では、案内してくれるガイドが必要になってくる。作ったらほったらかしではいけないので、お金がかかるかもしれないが考えていただきたい。

さらに、施設を作ったらおしまいではなくて、どうメンテナンスしていくかという視点も必要である。建物の耐用年数が６０年くらいで、長期的に蔵書が増えたときに保存できるような展望を持っておく必要がある。

１８ページに想定される浸水の記載があり、専門家が言ったとのことだが、本当に大丈夫なのかということがわからないので、ちゃんとした根拠を持ってやっていただきたい。

そして、大災害で浸水したとなったら約１週間程度電気が繋がらないことも想定される。１週間程度電源を確保するために発電機を設置する場所や、発電機の給油方法などの対策を今後検討していただきたい。

また、本日の欠席の平尾委員からご意見をいただいているので、事務局から紹介をお願いする。

（生涯学習課長）

本日、欠席の平尾委員から意見をいただいているので、紹介させていただく。

本計画案に対する市民への意見聴取・パブリックコメントはこれから実施されることと思いますが、その際には、事前に当該施設が果たす機能や役割、広島市における位置付けなどを、市民により分かりやすく示し、また「有識者」の間でどのような議論や検討がなされたのか等も含め、しっかりと公開いただくことを望みます。

整備候補地の３案比較については、唐突に３案が提示された感があり、その選定の経緯などについてもしっかりと公開していただきたい。

当該施設の整備に当たっては予算面についても十分に有効な金額を算出、検討し、その詳細や経緯も含めて公開いただくことを望みます。

計画案では、浅野文庫、他の貴重な古文書等、広島文学資料のいずれにおいても、「一般にあまり知られていない」、「活用されていない」ことが課題の一つとして挙げられています。これらに関する市民の興味や関心、認知度を上げていく意味でも、施設整備の段階から、これら文庫や資料の意義や意味、貴重性についてしっかりと市民に説明し、話題化し、このような素晴らしい資料が本市に存在することを周知していくことが、本整備自体への理解を高めることにつながると考えます。

当該施設の検討に当たっては、多くの市民と協働し、様々な意見をすり合わせていく過程を大切に、未来にわたって愛される施設をつくっていくこと必要であり、それは同時に「平和文化」を掲げる当市においては、大切なプロセスであり、姿勢ではないかと考えています。

というご意見をいただいている。

今後、今日のご意見等も踏まえて、本年度中に最終的な基本計画を取りまとめたいと思っている。

また、今回、この計画を作成するに当たり、県立広島大学地域創生学部の西本教授、広島県立文書館の西村研究員及び私設図書館楽山文庫の松本主宰の３名の専門家から意見を聞かせてもらい、資料のデータベースの公開、学芸員のしっかりとした配置、身近なテーマを基にしたミニ展示の実施、パッケ

ージの学習材料の提供、劣化が進むマイクロフィルムのデジタル資料への変換、学校教育の場での資料活用、座学でなく街歩きなどいろいろな要素を組み合わせて広がりを持っていくことが大切、持続的な情報発信、広島文化についての子供向けの資料ができればいいなどといった意見をいただいているので、こういった意見等もしっかりと反映させながら、最終的な計画を作っていきたいと考えている。

最後に、報告を一つさせていただく。

この度、こども文化科学館のリニューアルを実施することとしている。その中で、パネル展示として、２月４日及び６日にこども文化科学館でオープンハウス型説明会を行い、その中で様々な意見をもらっている。こども文化科学館のリニューアルの中心は、どのような展示をしていくかということではあるが、こども文化科学館の建物については、こども図書館も入っている。昨年度も図書館の再整備方針を作る中でこども図書館をどうしていくのかについて様々なご意見を当会議でいただいている。そういった中で、こども図書館を建物の中にどのように配置していくかということも、リニューアルのパネル展示の中に入れさせてもらっている。現在の案としては、今のこども図書館は１階と２階に縦に並んでいるような形で設置されているが、今後新たにリニューアルする際には、こども図書館を１階にすべて集約して、より使いやすい図書館にする案を示させてもらっている。この展示のイメージやフロアゾーニングのイメージは広島市のホームページから見ることができ、２月１０日まで意見を出せるようになっているので、お時間があればこども図書館のゾーニングやこども文化科学館のリニューアル展示についてもご意見いただけるとありがたい。